

# 巣引き不良の原因

## 無精卵が多い

- ・ 雌鳥が交尾を拒否している場合と、雄鳥の能力が低い場合があります。交尾後48時間以降の産卵は通常有精卵となります。交尾を確認しても無精卵のみの場合は、雄鳥が無精と考えられます。

## 巣を作らない

- ・ 巣草を与えても散乱させるだけで、皿巢にそのまま産卵する鳥もいます。雄鳥が巣作りを邪魔する時と、雌鳥の営巣能力が低い場合があります。
- ・ 巣材にサイザル麻(15cm程度にカット)を与えると、巣作りが上手にできるようです。
- ・ あらかじめ皿巢に柔らかい布地を張り付けると、巣作りが下手でも孵化します。

## 抱卵しない

- ・ 一般に、3卵目からは熱心に抱卵するようになります。カゴを移動したり驚かせたりしていると落ち着かず抱卵しないので、巣引き中は静かにしてカゴは一定場所から動かさず、巣の周辺を目隠しして、雌鳥を落ち着かせるようにします。
- ・ それでも抱卵しない時は、雄鳥が追いかけて廻していることが多いので雄鳥を別のカゴに移します。
- ・ はじめは抱卵するが、ヒナの孵化する前からソワソワして巣離れするのは、雌鳥が神経質すぎるか、再発情が早すぎる場合です。ヒエなどの粗食とし静かにしておきます。

## 孵化したが餌を与えない

- ・ 雛が孵化しても、餌を与えないため餓死してしまう原因は、雄鳥を警戒しているか、雄鳥に頼りすぎている時があります。雄鳥を分離し、雛には差し餌を与えて様子を見ますが、一度ひねた鳥は順調な発育を望めない場合が多いようです。
- ・ 雛が一人立ちする前に、雌鳥が次回産卵の準備を始めることも多く、この場合も餌を与えなくなります。雄鳥が餌を与える場合もありますが、雛が食べ易い柔らかい餌を十分に与えておく必要があります。(エゴマ、卵餌、水浸けナタネなど)

## 雛の早期巣立ち

- ・ 孵化後20日頃になると巣立ちの時期となりますが、雛を驚かしたりすると、まだ羽毛が揃う前に早期巣立ちして、夜間の寒さで落鳥する事もあります。巣に戻しても、すぐに飛び出すので、巣立ち間近な雛には手を触れないようにします。万一、早期巣立ちした場合は、寒さで死なせないように保温に注意します。